

未来へ

沖縄県立宮古高等学校三年 與那覇 もも

月桃ゆれて花咲けば
夏のたよりは南風
緑は萌えるうりずんの
ふるさとの夏（月桃・海勢頭 豊）

小学生の妹が
「意味も分からず口ずさむ
そのメロディーが胸に迫る
ああ、こうして沖縄の子どもたちは
未来へ

語り継いでいくのだと
うつすらと額に汗をにじませ
教室で鶴を折った
幼い頃の自分の姿がよみがえる
その日も蝉が鳴いていた

サンゴ礁で囲まれた
この美しい島に
鉄の暴風が吹き荒れたあの日
エメラルドグリーンのは海は
血で赤く染まり
白い砂浜は
人の死体で埋め尽くされた
ゆったり流れる時間と
穏やかな日常に
圧倒的勢力が迫ったその時
私と同じ十七歳の命が
戦場に散った

その事実を、知りたいと望む私のため
祖母の瞼の裏に
よみがえる戦場
まだ幼かった少女の
辛くむごたらしい
確かな記憶
写真も映像も
どこか現実離れして見えてしまう
それほどまでに、私たちは
遠くまできてしまった
沖縄戦を自分の言葉で語れる人は
あとどれくらいいるのだろうか
戦後七十三年
私には、私たちには
聞いておかなければならない声がある

今年も月桃の花が咲く

祖父が生前、虫よけになるからと
家の周りに植えてくれた
まだ小学生だった私に
戦争の話聞かせてくれた祖父
家の近くに落とされた爆弾の話
防空壕で震えていた、幼い日の記憶
「命さえあれば」
そう教えてくれた横顔を
今も忘れることはない

今年も蝉が鳴く季節がきた
七十三年前のあの日
蝉の声は聞こえたのだろうか
人間だけではなく
すべての尊い命が
その意思に反して奪われた
そんな正義があつていいはずがない
この島に集まったあらゆる地獄を
決して、忘れてはいけない

香れよ香れ月桃の花
永久に咲く身の花心
変わらぬ命
変わらぬ心
ふるさとの夏（月桃・海勢頭 豊）

妹のあどけない笑顔に
私は思う
それでも、沖縄の子どもたちは
未来へ
伝え続けていくのだ
二度とあの過ちを
繰り返してはいけないのだと
人間が人間でなくなり
四六時中銃弾が飛び交っていた中を
生き抜いたあなたの声を
私たちは決して
過去の話にしたりしない
大切な人を
もう誰もが決して
失わぬ
未来へ